

未来に向かって伸びる鶴嶺の子

鶴小だより 1月号

茅ヶ崎市立鶴嶺小学校
校長 日高 大司郎
令和5年1月11日発行



子どもを大切にすること

私事ですが、年末に娘が結婚しました。第一子ですので、本当にドタバタして、何が正解かも分からずに育てた娘です。

けれど娘の姿を見ていて、様々なことがあったけれど、子育てって何にも代えがたい素晴らしいことだと思いました。何もできない、何ももたない存在だった子が、少しずつ自分で考えいろいろなことを経験し、新しい家族を始めるところまで、自分で歩けるようになったと感じたからです。

僕は娘を大切に育ててきたつもりです。皆さんも、きっと同じだと思います。それでは、この「大切にすること」とは具体的にどうすることなのでしょうか。

放送中の朝ドラ「舞いあがれ」の台詞に、子育てについて共感できるものがありました。

主人公舞ちゃんのおばあちゃんが、自分の娘、つまり舞ちゃんの母親に向かって言う言葉です。「めぐみは舞のことを心配しすぎとね。」「気づいとらんとね。舞はここに来てから、お前の顔色ばうかがってる。」「舞は、お前に遠慮ばして自分の気持ちを言えんとさ。」「そう言って、母親を追い返し、舞ちゃんだけを預かるのです。そして、孫の舞ちゃんには、「こん島では、自分のことは自分でやる。」「失敗は悪かことじゃなか。」「できんことは、次できるようになればよか。そっでもできんなら、できることを探せばよかとぞ。」と伝えます。と同時に食事の後始末や自分の仕事をこの舞ちゃんに手伝わせ、様々な経験をさせながら、「自分の力でやる」ということがどういうことか、それは達成感のあるうれしいことだと、失敗しても「よかよか」と言いながら教えていきます。最後には、人の気持ちを考えられる孫を肯定しながら、「自分の気持ちも大事にせねば。」とも言うのです。

子どものことを大切にすることとは、「子どもが一人で自分の道を歩めるようになる。」ということではないでしょうか。だから、舞いあがれのおばあちゃんは、「心配しすぎだ」と「自分のことは自分で」と言うのです。加

えて、「自分の気持ちを大切にしなきゃ」とも伝えます。「大切にすること」ということは、断じて子どもを困難や失敗から遠ざけて、守ってやるということではありません。僕らはこの先ずっと子どもにくっついていくことはできないのです。困難や失敗がたくさんあっても、それを乗り越えられるように支え見守り手助けしながら、その乗り越え方を教えていくことが大事だと考えます。

ですから、おばあちゃんが言うように「自分のことは自分でやる」を発達段階にに応じてやらせましょう。失敗しても上手にいかなくともよいのです。そして、チャレンジする、やってみる姿勢を褒めましょう。その姿勢・過程を大切にしながら、自分の力でできたことをしっかり認め続けていきたいものです。

そうやって、子どもを見守っていく過程で、きっと色々な問題を子どもたちは抱えるでしょう。相手があるような問題だと、親御さん自身が、モヤモヤしたりイライラしたりすることもあると思います。そんな時は、ご自身の気持ちをまず切り替えてください。立ち止まって考えれば、その問題が自分の問題ではなく、子どもの問題であることに気づけるはずで、主体である子どもが乗り越えるために何ができるかを時間をかけて考えてみてください。

もう一つ、子どもを大切にすることとは、**子どもを愛する**ということ。自分にとって都合がいい、よい子だから愛するのではなく、今日の前にいる不完全な我が子を**まるごと愛する**ということ。そしてそれを言葉や行動にしてきちんと伝えてください。

不完全な子どもも自分なりに考えて、いつもよりよく生きようともがいています。そんな彼らに寄り添い励まし、とことん支え続けるということが、子どもを大切にすることにつながるのだと考えます。

結婚式での娘からの手紙に、「私が決めたことを、いつも応援してくれた。」との一文がありました。その言葉を聞いて、29年間のいろんな娘の顔が思い浮かびました。そして、本当に自分の道を歩き始めたのだなとうれしいのに、少しだけ感傷的な気持ちにもなりました。